

平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 4月 3日
研究・研修課題名	日本臨床検査医学会・日本臨床検査同学院共催 二級臨床検査士資格認定試験
研究・研修組織名(所属)	病理部
研究・研修責任者名(所属)	藤川純子(病理部)
共同研究・研修実施者名(所属)	藤川純子(病理部)

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	藤川純子(病理部)
学会名(会期・場所、認定名等)	二級臨床検査士(病理学)
演題名・認証交付先等	日本臨床検査同学院
取得日・認定期間等	平成30年9月2日

目的及び方法、成果の内容

① 目的

二級臨床検査士(病理学)とは、病理検査室において医師の指示のもとに病理学の諸検査を正しく行い得ることを日本臨床検査医学会が認定した者をいう。本資格を取得することにより、日常の病理検査における精度の高い標本作製の行程(受付、切出し、包埋、薄切、染色など)における技術や専門的知識を身につけることができる。それに伴い、病理診断の精度を向上させることに貢献できる。

② 方法

平成30年7月28日(土)から7月29日(日)にかけて、文京学院大学本郷キャンパス(東京都文京区)において二級臨床検査士資格認定試験が実施される。8つの専門分野に分かれた認定試験のうち、「病理学」を受験する。

● 筆記試験・実技試験、：平成30年7月14日(土)

- 受付開始 : 8時00分
- 集合時間 : 8時30分
- 筆記試験 : 9時00分～10時30分
- 実技試験 : 11時10分～18時30分

③ 成果

● 試験内容

▶ 筆記試験

筆記試験は、解剖学総論、病理学総論、解剖学・病理学各論、病理組織標本作製法、一般病理組織標本作製法、免疫組織化学および酵素組織化学標本作製法、ISH法、電子顕微鏡標本作製法、細胞学的検査法、解剖、管理および運営、検査機器について選択方式(5択)で50問出題された。

▶ 実技試験

実技試験は、小グループに分かれ、包埋・薄切・鏡検・染色を行った。

◆ 包埋

試験時間は15分で、内視鏡生検・腎生検・肝臓・脳・消化器の計5検体を包埋した。5つの検体を各々の大きさに合ったお皿に包埋し、冷やし固めた。パラフィンが固まったら、ブロックからお皿を外し、それらをトリミングした。

- ◆ 薄切
試験時間は40分で、自分で包埋した5つのブロックを、ユング型マイクロームを用いて薄切した。1ブロックにつき2枚のプレパラートを作製した。試験時間には準備から片づけまで含まれる。
- ◆ 鏡検
回答時間は1問1分。不良標本の判別、固定済み臓器の写真から臓器名の推定、作成済みブロックから埋められている臓器の推定、作成済みプレパラートを顕微鏡で観察し特殊染色名および臓器名の推定、免疫染色結果から染色名の推定の計5つの項目についてそれぞれ数問ずつ出題された。
- ◆ 染色
試験時間は40分。自分で薄切した10枚のプレパラートを下記の手順でヘマトキシリンエオジン染色を行った。
 1. 脱パラフィン (キシレン3槽)
 2. 脱キシレン (99.5%エタノール2槽、95%エタノール1槽)
 3. 流水水洗
 4. 核染色 (カラッチのヘマトキシリン)
 5. 色だし (流水水洗)
 6. 顕微鏡で核染色の色合いを確認する。
 7. 後染色 (エオジン)
 8. 分別 (流水水洗)
 9. 顕微鏡で染色の色合いを確認する。
 10. 脱水 (95%エタノール1槽、99.5%エタノール2槽)
 11. 透徹 (キシレン2槽)
 12. 封入 (組織の大きさに合ったカバーガラスを選択する)

- まとめ

今回の試験は合格することができた。二級試験には普段の業務で行っていることから出題される。二級試験の勉強をすることにより、普段の検査に必要な知識や技術を向上させることができた。今後も病理診断の精度が向上するように、標本作製の技術向上に努めていきたい。

<p>* 日本臨床検査医学会、公益財団法人 日本臨床検査同学院 二級臨床検査士 (病理学) 認定【2018年9月2日】</p>
